

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会

182号



一九八四年  
毎月（1・2・3・4・5・6の日）発行

もくじ 目次	
ちい 小さな暮らしの場 <small>ば</small> を守ろう.....	2
セルフ・レスキュー・コーチング.....	4
だいがくこうえん 大学講演へ行きました～！.....	5
しゅうねん 45周年だヨ！全員集合 <small>ぜんいんしゅうごう</small> 出発 <small>たびだち</small> のなかまの会 <small>かい</small> オールスター感謝祭 <small>かんしゃさい</small> .....	6
とんとん <small>そうかい</small> 総会 <small>そうかい</small> をしました.....	8
のびのびとやりたいことをやってみる時間 <small>じかん</small> .....	9
スタッフ <small>こぞ</small> 子育て日記 <small>にっき</small> .....	10
NPO総会 <small>そうかい</small> を終えて.....	11
かつどう 活動のあと.....	12

## 小さな暮らしの場を守ろう

日中支援型グループホームを全国展開していた株式会社「恵」が、ホームの入居者から徴収する食材費の過大徴収をおこなっていた事件に関し、2024年6月に同グループが運営する事業所の指定取り消し処分がおこなわれました※1。愛知県の報告によると、利用者から不正に得た金額は2億円にも上り、また、架空の人員配置をしておこなった不正請求額も4億円にのぼることがわかっています。行政は福祉サービス事業が適正に運営されるように指導をおこなっていますが、これをすり抜けていたということです。「恵」は全国におよそ100か所のグループホームを運営しており、そこに住んでいる利用者は約1,800人近くになります。グループホームに住まわれている方々は、引っ越し先を考えたり、実家等に戻られたり、運営主体が変わったホームで暮らし続けることになるということです。

障害福祉の制度は不正利用が起きないように、国や自治体等によって制度が設計されているのですが、制度を悪用した“悪だくみ”が減りません。一般的に、サービスの質が悪ければ、普通なら利用者から苦情が出て、質の悪いサービスは淘汰されると考えられます。しかし、福祉サービスではそのようになっていない実態があります。苦情は通常言葉や文書等で訴えられますが、知的障害者にとってそのような形で苦情を申し立てることは本当にハードルが高いことです。グループホームで暮らしている知的障害者が、自らの置かれている劣悪な状況を自分自身の言葉で外部に訴えることが難しいということも悪質な不正が続いてしまった要因のひとつかもしれません。知的障害者はサービスの利用者であるにもかかわらず、弱い立場に追いやられてしまうことがあるということです。だからこそ支援者は常にそのことを意識して障害者の人権を守らねばなりません。

国もグループホームの“質”の問題に取り組もうとしています。来年度からはグループホームに地域連携推進会議の設置が義務化されます。これは、利用者、利用者の家族、地域の人、専門家などがグループホームについて話し合う会議です。グループホームの風通しを良くして、地域の人たちにもグループホームがどのような場所なのか知ってもらいたいのですが、これでサービスの質が良くなると思っているのだとしたら本当に驚きです。サービスの質の問題は年1回の会議では解決しません。

NHK が2024年2月から5月にかけておこなった、障害がある人の住まいについての調査※2によると、入所施設やグループホームに入居を希望しているけれども、空きがなく待っている待機者の数が約2万2千人おり、そのうち約7割が知的障害者とのことでした。この調査

で回答を得られたのは全国のおよそ 4割の自治体となっていますし、ほとんどの自治体では、入所施設の待機者の把握はしていても、グループホーム入居に関する待機者の把握はしていないので、実際にはもっと多くの障害者が希望する住まいを得られない状態にあるのだと考えられます。

この結果を受けて、厚生労働大臣も障害者の住まいに関する実態把握を進めると国会で答弁しています。高齢の親が自宅で障害のある子をみている場合も多く、障害者の住まいと支援の拡充は待ったなしの課題です。しかし、障害者の住まいを確保しようというときに、多くの方が住めるから、介護者の確保が難しいからという理由で、日中支援型グループホームのような大きな定員のものが安易につくられてしまわないか心配です。

住まいの拡充が求められているからといって、「脱施設、地域移行」の歩みを止めることはあってはなりません。また、集団で処遇されることなく、個別の支援をすすめていくためにも、やはりグループホームであっても最少人数で暮らすことが大切なのではないでしょうか。入所施設や大規模なグループホームは、障害者が望む住まいではないという認識をしっかりと持って、これからも障害者運動にとりくんでいきたいと思えます。

※1 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_40994.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40994.html)

※2 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240709/k10014505941000.html>

いしいかおり  
(石井香里)



## セルフ・レスキュー・コーチング

2021年12月に起こった「北区（北新地）ビル火災」は、衝撃的で記憶に新しい方も多いのではないのでしょうか。ガソリン放火による火災によって、犯人を含む27人の命が奪われ、その死因の多くは一酸化炭素中毒でした。この火災を教訓にし、大阪市消防局では「セルフ・レスキュー・コーチング（SRC）」の指導が始まりました。SRCとは、火災発生時に階段で逃げられないなど危機的状況で、自身で命を守るための知識や技術（セルフ・レスキュー）を学び、考えるもの（コーチング）です。指導員2名がグループホームへ出向いてくださり、メンバーの生活場面でコーチング開始です。現実的で具体的な避難方法が学べました。

最初にAR（拡張現実）ゴーグルで煙の体験です。煙が目の前に広がると、一瞬で何も見えなくなりました。指導員の方が「煙（特に一酸化炭素）を吸い込まないように、屈んで階下へ逃げてください。煙は上に向かっていきますから」と説明してくれました。

次に煙の流入を防ぐため、扉などの隙間をガムテープなどでふさぐ方法や、窓を開けてあたまを下に外気（空気）を吸う姿勢など、階下や家の外に逃げられなくなった時の方法などを教えてくれました。バルコニーへ逃げることも有効だそうです。メンバーさんには難しいかな？というものもありましたが、命を守る方法を知るとは、火災時の避難手段が増えると感じました。コーチング終了後「私の家で火災がおったら・・・」と、一緒に受講したスタッフと、より具体的に考える機会にもなりました。

近々グループホームの避難訓練を実施する予定です。スタッフで共有し、もしもの火災に備えたいと思います。

さけみあつこ  
(酒見敦子)



## だいがくこうえん い 大学講演へ行きました～！

じりつせいかつ 自立生活センター・どんでんでは、まいとし 毎年つながりのあるだいがく 大学でメンバーがこうえん 講演やヘルパー募  
しゅうかつどう 集活動をしています。だいがく 大学からこうえん 講演をお願いされることもあれば、こちらからせひ活動をさせ  
てほしいとお願いすることもあります。というのも、きんねん しえんしゃ 近年、支援者が少なくなりメンバーの活動  
がへ 減ってきているげんじょう 現状があるからです。

はる はびきのし してんのうじだいがく 春に、羽曳野市にある四天王寺大学にメンバーのやました 山下さんとぬまた 沼田さんがこうえん 講演に行くことになり  
ました。わたし わたしは、「アルバイト・ヘルパーをほしゅう 募集したい！」そして「こうぎ 講義を受けた学生さんに  
メンバーさんのかつどう 活動やちいき 地域とのつながりをすこ 少しでも感じたり、知ってもらったりしたい！」と  
のおもい おもいを抱き、いでんしゃ 電車とバスをのり つぎ、きあい い 気合を入れてメンバーといっしょ 一緒に大学へむ 向かいました。

こんかい 今回、じゅこう 受講した学生さんはにゅうがく 入学したばかりのフレッシュな1かいせい 回生で、すがた すがた姿でういうい  
ひょうじょう 表情をした方も多く、「しんせん きも 新鮮な気持ちでメンバーさんのこうぎ 講義を感じ取ってくれたらうれしいな”  
とおもい おもいました。こうぎ 講義がスタートすると、やました 山下さんはプロジェクトからうつ 映し出される写真を見  
ながらしじぼう 指示棒を使い「とんぼまる、〇〇君」と同じグループホームに住んでいる仲間を紹介し  
たり、「うすまさえい がむら み とこうもん ひめさま い じしん たの 自身を楽しみにしているしゅみ 趣味などをしっかり  
とはげん 発言されていました。ぬまた 沼田さんも同じく写真をおな 観ながら自身のおい 立ちからげんざい 現在のひとり暮  
らしでのせいかつ 生活をせつめい 説明したり、しゅみ 趣味であるもけいづく HO模型作りやこうしん こうしょう 交渉といった当事者活動も  
がくせい 学生さんに向けてむ 熱くあつ 伝えていました。さいご 最後にアルバイト募集のちらしもがくせい 学生さんにはいふ 配布しま  
した。なが つき あ のあるだいがく 大学とメンバーとのつながりもあらた 改めて感じ「この積み重ねがたいせつ  
なんだ」ときも 気持ちがまえむ 前向きにじゅうじつ 充実しました。

こうえん 講演後はぬまた 沼田さんのきぼう 希望で校内のこうない カフェに行き、そと 外のけしき 景色が見えるまどぎわせき 窓際席にすわ 座ると、ぬまた  
さんはオレンジジュースを、やました 山下さんはホットココアをちゅうもん 注文し「今日はみなさんお疲れ様でー  
す！」とかんぱい 乾杯してリラックスタイムをたの 楽しみました。

そしてうれしいことに、メンバーさんのねつい 熱意やエネルギーががくせい 学生さんにとど 届いた様で、何と翌日  
にアルバイト希望のきぼう 連絡が入るしゅんらく 連絡が入るハッピーサプライズがま 待っていました！ぬまた 沼田さん・やました 山下さんの  
がんば 頑張りのたまもの 賜物です。これからもひび つ 日々の積み重ねをだいじ 大切にしながら、みなさんといっしょ 一緒にさまざま  
かつどう 活動を通じて「つながりのわ 輪」をひろ 広げていきたいとおもい おもいます。がんばるぞー！

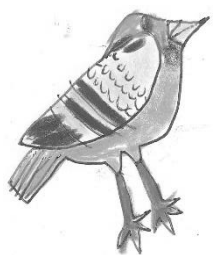
ふじたしょうきち  
(藤田 祥吉)

出発のなかまの会!  
オールスター  
大感謝祭  
2024 / 8 / 26



会の設立45周年を記念して、生野区民センターでイベントをおこないました。オープニングでは、作業所で毎週練習している太極拳が披露されました。次に45年間をギュギュッと詰め込んだムービーが流れると、皆さん真剣にスクリーンに見入っていました。今回は、これまでメンバーが何度も旅行で訪れた長野県や新潟県から、特別ゲストをお招きして大阪で交流することができました。以前たびだちで働いていたスタッフもお祝いに駆けつけてくれました。その他にも心のこもったお祝いの言葉やメッセージ動画をいただきました。本当にたくさんの出会いとつながりがあって、今があるのだと改めて感じました。これからも出発のなかまの会らしい活動を続けたいと思います。(石井香里)





# 45周年だよ! 全員集合

しゅうねんきねん  
45周年記念イベント

いくのくみん だい  
生野区民センター大ホール



## そんかい どんどん総会をしました

ことし 今年のどんどん総会の場所は、どんどん会議で話し合った結果、BOMBAで午前と午後の2回に分けてやることになりました。午前には主にとりの木のメンバーが参加しました。当日は朝から大雨が降っていて、みんな出勤するだけで大変でした。直接来られないので、リモートで参加してくれたメンバーもいました。

しゃしん み 写真を見ながら昨年度の活動の振り返りをしました。ヘルパー募集のチラシ配りや大学での講演活動、他事業所との交流やどんどんのTシャツを新調したことなどをみんなで確認しました。会計の報告をし、役員や目標の発表をし、最後にどんどんの歌をみんなで歌って午前の部が終わりました。

ちゅうしょく をとり、午後の部が始まりました。午後はたびだち作業所のメンバーが参加していました。午前に一度やっていたのもあり、テンポよく進む議題もあれば2回目ということで疲れが出てきて少しグダグダになりなかなか進行しない議題もありましたが、なんとか午後の部を終わり今年度のどんどん総会を無事に終わらせることができました。

ことし 今年のどんどんの目標は  
“みんなで協力してがんばろう！”  
“能登半島地震で困っている人を助けに行こう！”



だれ 誰かだけが頑張っていてどんどんの活動をするのではなく、みんなで協力しようと、どんプロ委員から意見があったり、2024年の初めにあった能登半島の地震を気にしているメンバーさんもいてふたつの目標になりました。

そんかい 総会が終わると暑くなってきてデモ行進や対府交渉が待ち構えています。体調などに気を付けながらみんなでポチポチがんばって行けたらいいなと思いました。

むらかみじゅん  
(村上純)



## 「のびのびとやりたいことをやってみる時間」<sup>じかん</sup>

A君(5歳)がみらくるちっぷに通い始めたのは今年の9月です。家ではよくしゃべるA君が保育園では話さないことが続いており、園から受診を勧められたのもその頃でした。毎朝保育園への登園時、お母さんやお父さんと離れる際には泣いてしまうA君。みらくるちっぷを初めて利用した日もお母さんの後ろに隠れるようにして入り、恥ずかしがるような様子でした。みらくるちっぷにだいたい慣れたら今でも玄関に入る時は、お父さんやお母さんに隠れていますが、室内に入ると元気いっぱい遊ぶ姿が見られ、おしゃべりもよくしています。鬼ごっこや虫探しが大好きでいつも夢中になっています。

大きな紙とスタンプを使って遊んだ時のことです。A君はスタンプをポンポンと押して楽しかったのか、そのうちに連打するように押してみたり、押しえながら動かして太い線にしたりしていろいろなスタンプの押し方を楽しんでいました。私が紫の丸いスタンプをいくつも押して「ぶどうみたい」と言うと、黒でぎゅっと押したスタンプをそのままぐるぐる動かして「タイヤや！」とうれしそう。「ほんまやタイヤみたいやな」と私が言うと、さらにタイヤの渦が大きくなって、ぐるぐるぐるぐる…「台風や！」と最後には大きな台風になりました。

制作には気が乗らない時もあるA君、決められたやり方や作る物が決まっていると完成度を気にしてしまったり、うまく作れるか自信がなかったり、“こうしないと”と思うと窮屈さを感じて制作を思い切り楽しめなかったりすることがあるように感じていました。今回はスタンプをおもしろいと思ってくれたようで、たくさん押してみたり、ぎゅぎゅっと押して動かして線にしてみたり、と自由な発想で楽しむ様子が印象に残りました。A君は“きちんとしないといけない”と感じて保育園では頑張っているのかもしれませんが、みらくるちっぷは保育園よりも少しゆったりとした時間の流れで、やりたいことができる場所だと思います。のびのびとやりたいことをやってみる時間も大切で、その中でさまざまな経験を重ねながら力を育み、また保育園に行った時にもA君の力が発揮できればいいなと思います。

※本記事は「みらくるちっぷ通信」から転載しています



## スタッフ こそだ にっき 子育て日記

子どもに起こりうるトラブルのひとつにSNSのトラブルがあります。これは現在中学2年の三男が1年生の終わりに起こったことですが、学校からの突然の連絡が始まります。学校からの連絡内容は、インスタグラムで中学校の裏サイトのようなアカウントがありそれを見た生徒の1人がそのアカウントにDM（ダイレクトメール）を送り誰なのかを問い詰めるとうちの三男の名前を言ったとのこと。それを聞いた学校は三男を呼び出して話を現在聞いているところとのことでした。連絡を受けて三男が使う可能性のあるスマホやタブレットを持って慌てて学校に向かいました。三男は3人の先生から話を聞かれているところでした。なんだか尋問されているように見えて親としては胸が締め付けられる思いです。本人は泣きながら自分は知らないと言っていて、こちらも持参した端末を見てもらいインスタグラムは使用していないことを確認してもらいます。とはいっても他の方法で投稿している可能性もないわけではありません。先生から現在の把握している状況など説明を受けたり、実際にそのインスタグラムアカウントを見せてもらったりしました。実名を載せてテストの点数を暴露したり悪質な内容もあったりします。なんとかやっっていないことを証明できないかと先生とも話を続けていたのですが、そこで改めてインスタグラムを確認した先生が投稿が1件削除されたことに気づきました。この場にいる三男には不可能なことです。たまたま学校で話をしている、そのタイミングで投稿が削除されたことで運よく無実が証明されました。

しかし大変なのは次の日からです。無実が証明されたとはいえ、学校中にこの話は知れ渡っていて好奇の目で見られることを嫌がったので、「学校には行きたくない」と言ってきました。私が一緒に行くことで学校の正門までは行けましたがそこから入れません。困っていると担任の先生が正門まで迎えに来てくれて先生と一緒に学校に入ることができましたが1時間ほどで帰ってきました。このまま不登校になってしまうかな？仕方ないかな？と思いましたが、小學校のときのミニバスのチームで一緒だった子から“明日の朝迎えに来る”とLINEがあったようで翌日から無事学校に行くことができました。ミニバスのときには特に仲が良かったわけではないのですが、あれから数カ月経ちましたが今も一緒に行ってくれています。SNSに傷つけられましたがSNSに助けられる。そんな出来事でした。

ますだしげひろ  
(増田重廣)

## NPO総会を終えて

2024年5月27日(月)に東成区民センター6階小ホールにて、第25回定時総会をおこないました。当日は112名の出席(うち委任状出席者は37名)で、定款に定める総会として進めることができました。

今回も、写真をスクリーンに映して事業報告や事業計画の説明をおこないました。作業所でお花見や太極拳、支援者募集のチラシ配り、グループホームでの暮らしや旅行、知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座開講、「みらくるちっぴ」・「みらくる ゆーすと」での子どもたちの活動の様子など、2023年度の活動について報告しました。「どんだん」の報告では、ピープルファースト大阪大会での楽しそうな様子や他団体との交流会の様子が映し出されました。その他事業では、松野農園を中心とした活動やみらくるクラブ、初めて映画の上映会もおこないました。2023年度は、他団体の方々と一緒にいろいろな活動ができた1年でした。

写真があると、みなさんあれこれ思い出すようで、「あんなことしたな〜!」「またやりたいね!」と、楽しみながら1年間を振り返ることができました。来年も、おもしろい報告ができればいいと思います。2024年度も、みんなが楽しみにしている旅行や様々な活動を通して、もっとたくさんの人たちと繋がっていきたいと思います。

当会の活動を支えてくださっている全国各地の皆様、いつも温かいご支援・ご協力、本当にありがとうございます。あっという間に5年がたち、認定特定非営利活動法人の認定有効期間の更新の時期がやってきました。ドキドキしながら実地調査の日を迎えましたが、無事に更新ができました。毎年たくさんの方々々に寄附者になっていただき、本当に感謝しております。2024年度も認定特定非営利活動法人として、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わり、より地域の方々々と連携して、活動を進めていきたいと思います。今後とも、よろしく願いいたします。

【認定の有効期間 令和6年7月11日～令和11年7月10日】

いちかわ  
(市川よしみ)

活動のあと

5/1~5/30 絵画展 展示(生野区民センター)	7/3 ヘルパー交流会(松野農園)
5/2 ランチ会(松野農園)	7/5 グループホームスタッフ全体会議
5/7 グループホームスタッフ全体会議	地域共生全国フォーラム打合せ
5/8 実習見学受入会議/とりの木サービス担当者会議	7/6 みらくる学習会
生野区グループホーム連絡会世話人会	内部研修(感染症対策研修 1-⑤)
5/11 内部研修(発達障害勉強会・防災研修)	7/10 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会
5/13 出発通信発送	セルフ・レスキュー・コーチング①
生野区相談支援事業所連絡会役員会	生野区グループホーム連絡会世話人会
5/14 研修委員会	ランチ会(松野農園)
5/15 生野区学童期子ども支援連絡会役員会	7/11 執行委員会
5/17 ドロン(松野農園)	セルフ・レスキュー・コーチング②
障大連・大阪市ブロック学習会	7/16 大阪府交渉に向けた総決起集会・デモ行進
5/19 みらくるクラブ【木登り】(住之江公園)	7/17 とりの木サービス担当者会議
5/20 執行委員会	作業所エッセンス会議
すきっぷサービス担当者会議(桃栗館)	生野区学童期子ども支援連絡会役員会
5/21 理事会	7/19 ドロン(松野農園)
5/22 生野区相談支援事業所連絡会	地域共生全国フォーラム打合せ
生野区 NPO 連絡会	7/22~8/9 「idea」の島々 絵画展 作品展示(奈良・上牧町)
5/23 作業所エッセンス会議	7/24 生野区相談支援事業所連絡会
5/24 地域共生ケア生野推進委員会	生野区 NPO 連絡会総会・研修会
障大連運営委員会	7/25 すきっぷサービス担当者会議(らいす)
5/25 障大連総会	内部研修(発達障害研修)
5/26 内部研修(職員グッドスタート会議)	7/26 執行委員会/地域共生ケア生野推進委員会
5/27 特定非営利活動法人出発のなかまの会 総会・二者会議	7/27 生野ふれあい夏祭り 出店
5/29 執行委員会	8/1~8/30 生野区民ギャラリー 展示(生野区役所)
5/30 どんどん講演(関西大学堺キャンパス)	8/1~9/26 インターンシップ受入(関西大学)
6/4 生野未来学園さつま芋植え付け(松野農園)	8/1 ランチ会(松野農園)
6/5 ランチ会(松野農園)	8/2 グループホームスタッフ全体会議
6/6 執行委員会	8/3 内部研修(発達障害勉強会)
6/7 グループホームスタッフ全体会議	8/4 みらくるクラブ【キャンプ準備会】(BOMBA)
6/12 生野区グループホーム連絡会(感染症研修)	8/6~9/19 実習生受入(桃山学院大学)
6/14 合同研修会(社会福祉法人草の根共生会)	8/7 大阪府オールラウンド交渉①
6/16 みらくるクラブ【竹細工】(奈良県平群バンブーハウス)	生野区グループホーム連絡会(虐待防止研修)
6/18 どんどん総会	8/9 執行委員会
内部研修(感染症対策研修 1-①②)	合同研修会(社会福祉法人草の根共生会)
6/19 内部研修(感染症対策研修 1-③)	8/11 IKUNO サラダボウル・プロジェクト マイヒストリーの会(松野農園)
生野区学童期子ども支援連絡会	8/16 ドロン(松野農園)
6/20 内部研修(感染症対策研修 1-④)	大阪府オールラウンド交渉②
不登校・ひきこもり支援連絡会	8/17 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座①
6/21 執行委員会/ドロン(松野農園)	8/18 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座②
6/24 自主勉強会	8/19 自主勉強会
6/25 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	8/21 認定特定非営利活動法人の認定有効期間更新のための実地調査
どんどん勉強会(自転車)	8/22 職員研修(特定非営利活動法人 自立生活夢宙センター)
6/26 生野区相談支援事業所連絡会	8/23 地域共生ケア生野推進委員会役員会
生野区 NPO 連絡会	8/24 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座③
6/27 すきっぷサービス担当者会議(和楽苦荘)	8/26 出発のなかまの会 45 周年記念事業『オールスター大感謝祭』
作業所エッセンス会議	8/27 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会
6/28 たびだちサービス担当者会議	地域共生全国フォーラム打合せ
地域共生ケア生野推進委員会役員会	8/28 生野区 NPO 連絡会
障大連運営委員会	8/29 執行委員会
6/29 内部研修(発達障害勉強会)	すきっぷサービス担当者会議(きらら)
みらくるちっぷランチ会(松野農園)	

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 発行人 関西障害者定期刊行物会 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4階

頒価百円

編集後記

ゆめ風ネット加賀主催のイベント「のとからの風展〜大震災後、私たちはこう生きてきた〜」in金沢に行きました。被災地の障害福祉事業所が福祉避難所を開設した際、下水道が使えず、仮設トイレを行政に要求するもの拒否され、施設長が自腹で仮設トイレを設置したとのことでした。大震災の被災地であっても、公助は機能せず自助を求められてしまう現実でした。被災地の現状をもっと広く伝える必要があります。(平山周平)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011  
大阪市生野区田島 1-10-30  
たびだち共働作業所内  
TEL 06-6758-6641  
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080  
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
ホームページ <https://www.tabidati.jp/>  
750 部